# 畳寸取帳An R3
# 取扱説明書

Ver.1.22.2　2023/10/30

(C)共和システム株式会社　1988～2020
© DCraftWork 2021

# 目次

目次　２

１．はじめに
畳寸取帳 An R3とは　３
畳寸取帳 An R3の機能　３
畳寸取帳 An R3の必要環境　３

２．お使いになる前に
インストール　４
無償版の利用　４
アンインストール　４
アップグレード　４

３．アプリの使い方
アプリの起動　５
採寸を行う　５
採寸の終了　７
採寸メニューのその他の機能　８
固定寸入力　８
不在入力　８
鈎入力　９
過去の部屋を編集する　１０
設定を変更する　１１

４．採寸データ送信
データ通信の種類　１３
Bluetoothで採寸ファイルを送信する　１３
WiFiで採寸ファイルを送信する　１６
遠隔同期で採寸ファイルを送信する　１７
採寸ファイルの利用　１８
メール送信　１９

５．採寸機との連携
対応採寸機　２０
連携内容　２０
登録方法　２０
接続のしかた　２０
VH-80との接続　２１
VH-80での採寸　２１

６．困ったときは　２２

付録１：作成可能な間取　２３

注意）本書に掲載されている画像は開発中のものであるため、実際の製品とは細部が異なっている場合があります。ご了承ください。

# １．はじめに

## 畳寸取帳An R3 とは

このソフトウェアは、畳を製作するにあたって不可欠の、現場における採寸を支援することを目的としています。

スマートフォン及びタブレット上に部屋の敷詰図を表示し、採寸点を選んでその部屋のクセを手動もしくは自動的に取り込むことができます。

保存した部屋は記録して後で参照できる他、WindowsPCなどで取り込み、保存や表示を行うことができます。

## 畳寸取帳An R3 の機能

畳寸取帳An R3（以下畳寸取帳） は、畳の製作にあたり、以下の機能を提供します。

・畳の採寸値の入力
・多様な間取りの部屋の採寸
・採寸図面への鈎柱の記入
・入力した部屋データの保存とその読込
・Bluetooth式畳採寸機との連携
・『畳システムV5』とのデータ互換

具体的な作成可能な間取は、末尾の「付録１：作成できる間取」を参照ください。

## 畳寸取帳An R3 の必要環境

畳寸取帳An R3のご利用には、以下の条件を満たすAndroid端末（スマートフォン、タブレット）が必要です。

・Android6.0以降ををOSとするAndroid端末(API23以降)
(Windows,WindowsPhone,Apple iOS 等のOSには対応しません）
・タッチ操作に対応していること
・解像度が1024×580以上のモニタを持つこと
・Bluetooth2.1以降に対応していること
・BluetoothLE対応デバイスを使用する場合、Android10以上の端末であること

# ２．お使いになる前に

## インストール

畳寸取帳のご利用には、当方に端末を一度お預けいただくか、WindowsPCを経由してインストールを行います。
インストールにはTeamViewerなどのリモートサービスを使用します。当方までご連絡ください。

旧版で使用していたAndroidアプリストアでのインストールと更新は、現在の仕様では行うことができません。ご了承ください。

## アンインストール

畳寸取帳の削除を行うには、Android端末の「設定」メニューから「アプリ」の項目を選択し、表示されるリストから『畳寸取帳An R3』を選んでください。
開かれる「アプリ情報」の画面から、「アンインストール」のボタンをタッチすることで、アプリの削除が行われます。

## アップグレード

畳寸取帳An R3は、WindowsPCから更新を行うことができます。
基本的にはTeamViewerを使用し、遠隔操作にてソフトウェアの更新を行いますので、USBケーブルにてPCと接続の上、当方までご連絡ください。

# ３．アプリの使い方（１）　アプリの起動から採寸

## ３－１．アプリの起動

畳寸取帳を起動するには、まずアプリリストを開いてください。

注：
ご利用のAndroid端末によって操作法と画面レイアウトが異なります。多くの場合、画面下段中程にアプリリストを開くボタンがあります

開かれたアプリリストから、『畳寸取帳An R3』のアイコンを捜し、タッチしてください。
この操作により、畳寸取帳が起動し、「スタート画面」が表示されます。

アプリを終了したい場合、画面左下の矢印マークで戻ることで、アプリが終了します。

なお、Android10以降の端末では、この戻るボタンが画面に表示されず、画面端から中に向けて指をスワイプすることで「戻る」操作を行うことができます。

図３－１　スタート画面

## ３－２．採寸を行う

採寸を行うための手順を説明します。

### 間取の設定

まず、作成したい間取を「部屋種別」の項目をタッチして、開かれるメニューから選択して下さい。
作成できる間取について、詳しくは巻末の「付録１：作成可能な間取」を参照して下さい。

図３－２　間取の選択

### 規格の設定

次に、規格寸を設定します。図面上の部屋の上側に対して縦向きと横向きで別の規格寸を割り当てることができます。
変更したい規格をタッチしてください。単位は厘です。

### 広間の枚数設定

作成したい部屋の間取が広間であった場合、その部屋の敷き込みに応じて、縦横の畳の枚数を指定してください。
縦横ともに最大10枚を指定することができます。
右半畳広間、右下半畳広間では、右端の縦列を除いた数を指定します。詳しくは、枚数を指定したときに画面に表示されるサムネイルを参考にして下さい。

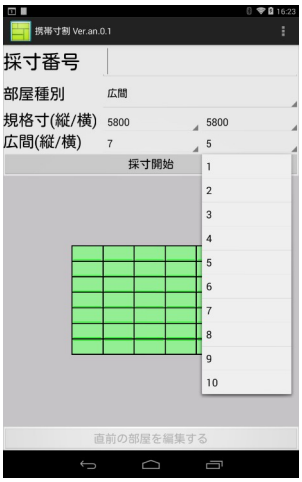


図３－３　広間の選択

### 採寸番号の設定

必要な場合、採寸番号を指定してください。最大８桁の数字が使用できます。
この欄を空白のままにすれば、自動的に前回の番号に１を加算した値が与えられます。

以上の設定が終わったならば、「採寸開始」ボタンをタッチすることで採寸が開始されます。

# ３．アプリの使い方（２）　補足採寸条件

## 追加１：補足採寸条件（Ｒ３ Ｖｅｒ．１．１２以降）

　採寸を開始する前に、規格の下の「補足採寸条件切替ボタン」（﹀）をタッチすると、「補足採寸条件」の入力ができるようになります。
　入力できる項目は、以下の四種類です。

建物名　　畳システム取り込み時に、第一採寸条件に割り当てられます。

施主名　　畳システム取り込み時に、第三採寸条件に割り当てられます。
　　東海モードでは、「顧客名」となります。

位置方位　部屋の上側の向きを示します。左の選択メニューから選ぶか
　　手入力することで、その向きにある目印を入力できます。
　　東西南北の方位は、畳システムで敷込名称の基準として変換が
　　行われます。

厚さ　　畳の床の厚さを示します。キビ折曲機にデータを書き込む場合、
　　厘単位で入力した値が書き込まれます。

　補足採寸条件を隠したい場合は、再度「補足採寸条件切替ボタン」をタッチすることで隠すことができます。

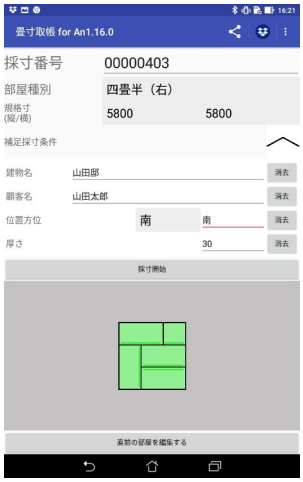


図３追加１　補足採寸条件

注：
　隠された状態では、補足採寸条件の値は採寸ファイルに反映されません。

# ３．アプリの使い方（３）　採寸を行う（続）

## ３－２．採寸を行う（続）

採寸画面では、寸法の入力を行っていきます。

### 寸法の入力

指定した部屋の敷込図の周囲に配置された緑の点が測定点です。測定点をタッチすることで、赤く色が変わって選択状態となります。

キーボード、もしくは無線採寸器を使用して寸法を入力し、キーボードか数値表示欄の右にある「確定」ボタンをタッチすることで、数字を確定することができます。
確定された測定点は、入力された数字に表示が変更されます。

数値を確定すると、測定点は時計回りに移動します。
標準では部屋の左上が選択状態となっていますが、任意の場所から測定を開始して構いません。

すべての測定点の入力が終了したならば、『３－３．採寸の終了』に進んでください。

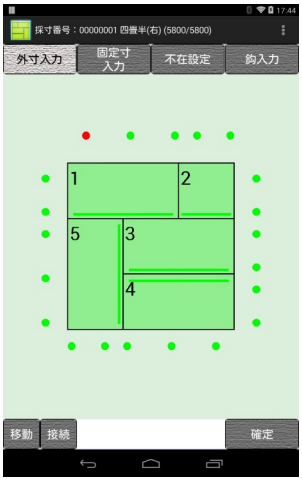


図３－４　採寸画面

### キーボードの操作

キーボードは、カウンタをタッチすることで開かれます。それぞれのボタンの機能は以下の通りです。

「０～９」：数値をカウンタに入力します
「＋／－」：カウンタの数値から符号を追加/削除します
「確定」　：カウンタの数字を敷詰図に入力します
「▽」　　：キーボードを閉じます
「移動」　：敷詰図の移動をON/OFFします
「接続」　：無線採寸機との接続をON/OFFします

注:
敷詰図上で指をピンチイン・ピンチアウトすると、敷詰図を拡大・縮小することができます

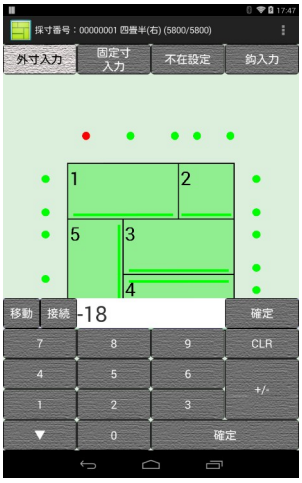


図３－５　キーボード

## ３－３．採寸の終了

採寸を終了する場合、画面右上のメニューボタンをタッチしてください。
表示されるメニューから、「保存して終了」をタッチすれば、現在作業中の部屋を保存して、「スタート画面」に戻ることができます。

画面左下の矢印（戻る）ボタン、もしくは「保存せずに終了」をタッチすれば、現在の作業を破棄して「スタート画面」に戻ることができます。

注:
間違って「スタート画面」に戻った場合、画面下段の「直前の部屋を編集する」をタッチすることで、直前まで作業していた部屋を表示することができます。

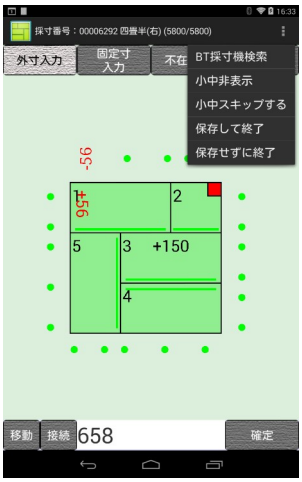


図３－６　採寸メニュー

# ３．アプリの使い方（４）　さまざまな入力機能

## ３－４．採寸メニューのその他の機能

採寸メニューには、採寸終了の他にいくつかの補助機能があります。

「BT採寸機の検索」：
無線採寸機を検索し、接続できるようにします。
操作方法は、「設定」画面のものと同様です。

「小中非表示／小中表示」：
小中寸法の表示と非表示を切り替えます。
この表示を切り替えることで、小中（もしくは小間中）の寸法を入力できるようになります。

「小中スキップする／小中スキップしない」
小中寸法を表示しているとき、その寸法をスキップして中間値を与えるか、手動で数値を入力させるかを切り替えます。
小中表示をしていない時は、効果がありません。

## ３－５．固定寸入力

敷詰図の中程の畳の寸法を記録しておきたい場合があります。その場合、「固定寸入力」機能を使用してください。

画面上の「固定寸入力」ボタンをタッチすることで、「固定寸入力モード」に切り替わります。
「固定寸入力モード」では、敷詰図の内側に入力可能な寸法が黒丸で表示されます。
ここで、入力したい寸法をタッチして、キーボードで入力してください。
確定ボタンで数値を確定すると、外周の寸法同様黒丸が数値に変わります。

入力した固定寸は、「外寸入力モード」や敷詰図にも表示されます。

固定寸入力を終了したい時は、「外寸入力」などの他の機能キーをタッチしてください。

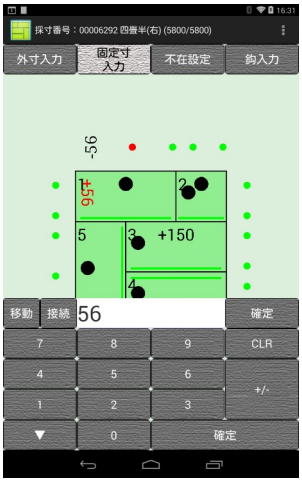


図３－７　固定寸入力

## ３－６．不在入力

製作しないことがわかっている畳がある場合、「不在入力」機能を使用してください。

画面上の「不在入力」ボタンをタッチすることで、「不在入力モード」に切り替わります。
「不在入力モード」では、敷詰図をタッチすることで、その畳が作成されない「不在畳」であるマーカーをつけることができます。
マーカーを消したい場合は、再び同じ畳をタッチしてください。

入力した不在畳は、外寸入力モードや敷詰図にも表示されます。

不在入力を終了したい時は、「外寸入力」などの他の機能キーをタッチしてください。

注：
東海機器対応モードでは、不在畳の機能が『畳屋さん』に含まれないため、この機能は利用できません。

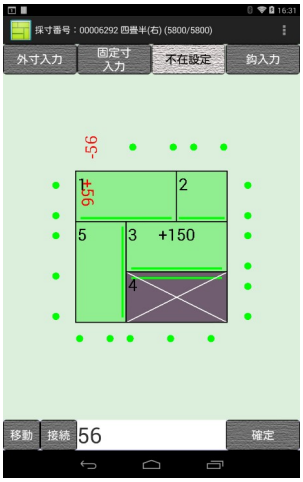


図３－８　不在入力

# ３．アプリの使い方（５）　鈎入力

## ３－７．鈎入力

敷詰図に鈎柱の位置を記入しておきたい場合があります。その場合、「鈎入力」機能を使用してください。

画面上の「鈎入力」ボタンをタッチすることで、「鈎入力モード」に切り替わります。
「鈎入力モード」では、敷詰図をタッチすると、赤く鈎のマーカーが表示されます。
この鈎をタッチすると、画面下側に詳細画面が表示され、詳細な寸法の入力ができるようになります。なお、鈎は柱そのものの大きさを入力する[
内寸]と、基準からの距離を入力する[外寸]があり、どちらでも入力することができます。

ここで、入力したい鈎寸法をタッチして、キーボードで入力してください。
確定ボタンで数値を確定すると、外周の寸法同様測定点が数値に変わります。

鈎を削除したい場合は詳細表示の右の「鈎削除」ボタンを押してください。現在選択中の鈎が削除されます。
詳細表示は、「閉じる」ボタンで閉じることができます。

鈎は最大一部屋４箇所まで設定することができます。

鈎入力を終了したい時は、「外寸入力」などの他の機能キーをタッチしてください。

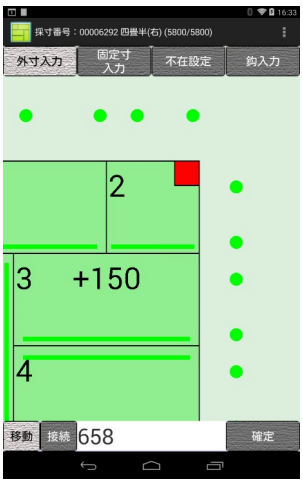


図３－９　鈎入力

●R3 Ver.1.5以降

鈎入力に、Ver.2を導入しました。
畳の角に接しない柱鈎でも、部屋の角でない限りは壁からの距離を入力可能です。
Ver.2への変更は「設定」から「鈎入力」の項目で「Ver.2」にチェックを入れることで行えます。

注：
東海機器対応モードでは、「畳屋さん」との互換のため、鈎は部屋の外周に沿った地点にのみ入力します。

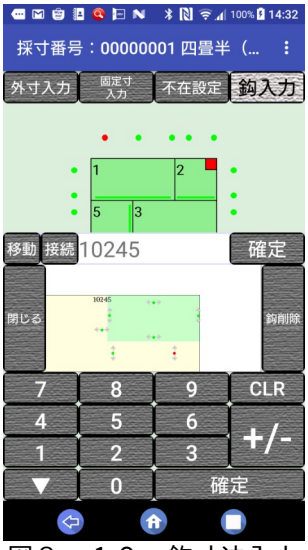


図３－１０　鈎寸法入力

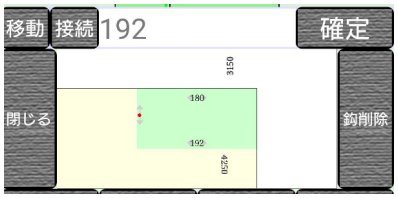


図３－１０．１　鈎入力（東海）

# ３．アプリの使い方（６）　過去の部屋の編集

## ３－８．過去の部屋を編集する

以前作成した部屋を再編集するには、「スタート画面」メニューから「ファイル読込」をタッチしてください。

表示される「ファイル読込」画面は、現在Android端末に保存されている採寸ファイルのリストを表示しています。

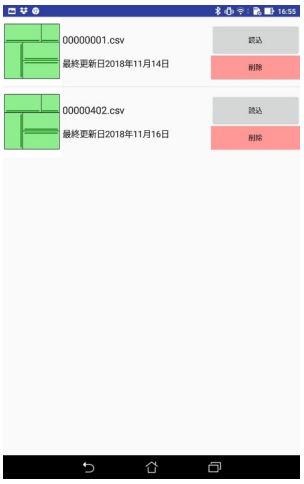
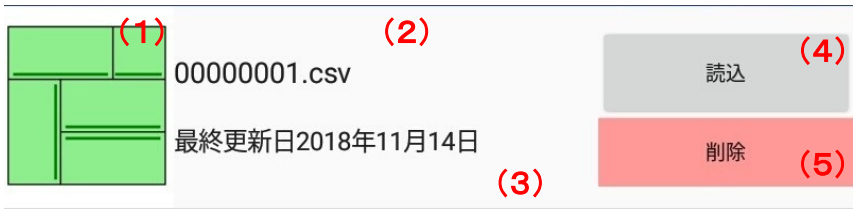


図３－１１　ファイル読込

*ファイルリストの見方*




*（１）部屋の間取のイメージ　　（２）採寸番号（ファイル名）*
*（３）最終更新日時　　（４）読込ボタン*
*（５）削除ボタン*

このリストから部屋を選択し、「読込」ボタンをタッチすると、部屋の詳細が表示されます。

項目数が多いときは、画面を縦にスワイプしてリストをスクロールさせることができます。
「削除」ボタンをタッチすると、指定した採寸ファイルを削除することができます。
不要になった採寸ファイルは、定期的に削除するようにしてください。余剰ファイルでリストが巨大化し、ファイル読込の応答が非常に遅くなるおそれがあります。

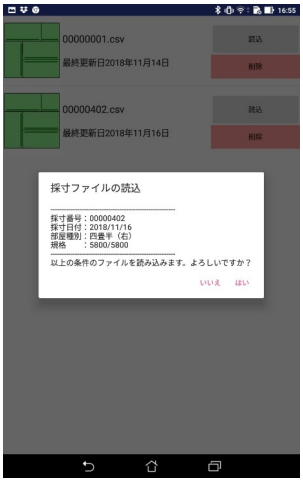


図３－１２　ファイル詳細

注：採寸ファイルの自動削除
「設定」で「ファイル送信時　自動で採寸ファイルを削除する」の項目にチェックを入れておくと、PCへの無線送信に成功した際に、自動的にAndroid端末内の採寸ファイルを削除します。

# ３．アプリの使い方（６）　設定の変更（1）

## ３－９．設定を変更する

「環境設定」で、本アプリの機能を変更したり、Bluetooth無線接続の設定を変更したりすることができます。

「スタート画面」メニューから「設定」をタッチしてください。

表示される「環境設定」画面には、以下の項目があります。

・採寸番号カウンタ
次回の採寸番号の起点を指定します。採寸番号を入力せずに採寸を開始すると、自動でこの値に+1した採寸番号が与えられます。
数値８桁のみ入力することができます。

・エンコーダ定数
無線採寸機（エンコーダ型、杉井レーザーマジック等）との連携を行う場合のみ機能します。
無線採寸機から取得した数値を、無線採寸機固有の定数に合わせて補正します。詳細は無線採寸機の販売者にご連絡ください。

・自動電源OFF
無線採寸機との連携を行う場合のみ機能します。
無線採寸機が自動的に電源をOFFにするまでの時間を設定します。詳細は無線採寸機の販売者にご連絡下さい。

・採寸機接続　Bluetooth設定
無線採寸機との連携を行う場合にのみ機能します。
現在本アプリに登録されている採寸機のBluetoothアドレスを表示します。
右の「検出」ボタンから無線採寸機を検索し、登録することができます。

・Bluetooth接続方式
無線採寸機との接続を行う方式を決定します。
レーザーマジックを使用する場合は「クラシック」を、
VH-80SEなどのレーザー通信機を使用する場合は「Bluetooth4.0LE」を選択してください。

・PC接続　Bluetooth設定
現在本アプリに登録されている畳システムPCのBluetoothアドレスを表示します。
右の「検出」ボタンから畳システムPCを検索し、登録することができます。
ここで登録したPCに、採寸ファイルを送信することができます。詳しくは「４．採寸データ送信」を参照してください。

・WiFi通信設定
本PCに登録されている畳システムPCのIPアドレスとポートを示します。
このIPアドレスのPCに、採寸ファイルを送信することができます。詳しくは「４．採寸データ送信」を参照してください。

・「ファイル送信時　自動で採寸ファイルを削除する」チェック
チェックを入れていると、PCへの採寸ファイル送信時、自動でAndroid端末のファイルを削除します。

・「自動的にBluetooth採寸機に接続する」チェック
無線採寸機との連携を行う場合のみ機能します。
採寸開始時に、自動的に無線採寸機への接続を試みます。
このチェックを入れていなくても、採寸画面の「接続」ボタンをタッチすれば接続は行われます。

・「採寸値自動読取を有効にする」チェック
無線採寸機（レーザーマジック）との連携を行う場合のみ機能します。
採寸中、無線採寸機の受光器にレーザーが通過した瞬間に、自動的に寸法を読み取る機能を有効にします。
このチェックが入っていない場合、ボタンを押下した瞬間の値を取り込みます。

・採寸ファイル送信時に関連写真を添付する
メールで採寸ファイルを送信する際、畳寸取帳アプリから撮影した写真を添付します。

図３－１３　環境設定

# ３．アプリの使い方（７）　設定の変更（２）

・保存ファイル形式
　採寸ファイルを、畳寸取帳 for An形式（[KTSW3_N.N]）で保存するか、旧形式([KTSW2])で保存するかを選択します。
　WindowsPCに取り込む際、旧形式のファイルにのみ対応する互換ソフトを利用する場合などにチェックを行ってください。

・鉤入力方式
　鉤入力の方法を、畳の角に沿ってしか入力を許さない方式である「Ver.1」と、壁からの距離を入力できる「Ver.2」を選択します。

・対応メーカ
　東海機器工業の「畳屋さん」に対応したモードと、株式会社キビと畳システムＶ５に対応したモードを選択します。

・寸法単位
　厘単位での採寸と、ミリ単位での採寸を切り替えます。
　Ver.1.22.2では不具合があるため機能を停止しています。

・カスタム採寸順序を使用する
　採寸順序を任意設定する「カスタム採寸順序」モードを有効にする場合にチェックします。
　カスタム採寸順序は、採寸画面から設定を行うことができます。

・送信先メールアドレス
　採寸メニューからメールを作成して採寸データを送信する場合の、自動的に設定される送信先メールアドレスを設定します。

図３－１４　環境設定（2）

# ４．採寸データ送信（１）

畳寸取帳から採寸データをWindowsPCに移動するには、WindowsPCにインストールした受信アプリケーションと通信を行う必要があります。
この項目では、受信アプリケーションに『畳システムV5』を使用する場合を解説します。

この通信を行うためには、以下の環境が必要となります。

・WindowsXP SP3以降のOSをインストールした、WindowsPC
・Windows用ソフトウェア　畳システムＶ５
・Bluetooth2.0以降の通信機能（Bluetooth通信を行う場合）
・WiFi接続のための無線アクセスポイント（WiFi通信を行う場合）
・Dropbox等のクラウドストレージサービスのアカウントとアプリ（遠隔同期機能を使用する場合）

以下では、畳システムV5が動作しているWindowsPCを『畳システムPC』と呼称します。

## ４－１．データ通信の種類

畳寸取帳と畳システムPCでファイルをやりとりするには、以下の四種類の方法があります。

１．Bluetooth通信

２．WiFi通信

３．遠隔同期

４．メール送信

以下で、それぞれの方法について解説を行います。

注：以下の解説では、Windows10のインストールされたPCが使用されていることを前提とします。

## ４－２．Bluetooth接続で採寸ファイルを送信する

Bluetoothを使用する場合、畳システムPCにBluetooth通信機能が必要です。
Bluetoothは、同一事務所内、畳システムPCが目で見える距離であるときに、PCと畳寸取帳の間でファイルをやりとりしたい場合におすすめします。

１．畳寸取帳と畳システムPCのペアリング

ここでは、Android端末から、畳システムPCへの接続設定（ペアリング）を行います。なお、操作は基本的に縦置き状態で行います。

本アプリをインストールしたAndroid端末から、畳システムPCのBluetooth通信装置を発見する必要があります。この操作は、一度接続が確立すれば、同一端末間では再度行う必要はありません。
また、Bluetooth採寸機とWindowsPCは、別々にアプリに登録するため、この操作によって無線採寸機との接続が解除されることはありません。

まず、畳システムPCのBluetooth設定を開いてください。畳システムV5.3.13以降であれば、「受信」画面の「設定」メニューから、「Bluetooth通信」タブをクリックし、右の「Bluetooth設定を開く」をクリックすることで、WindowsのBluetooth設定画面を開くことができます。

図４－１　Blueooth通信設定

# ４．採寸データ送信（２）　Bluetooth設定

Bluetooth設定画面を開くと、Windows10は他のデバイスからBluetooth検出が可能な状態となります。

この状態で、Android端末の畳寸取帳の操作に戻り、「スタート画面」画面右上のメニューから「設定」を開き、「PC接続　Bluetooth設定」の項目の右にある「検出」ボタンをタッチしてください。

表示された「Bluetooth接続検索」画面で、右上の「検出」ボタンをタッチすると、現在検出可能なBluetoothデバイスがリストに表示されます。

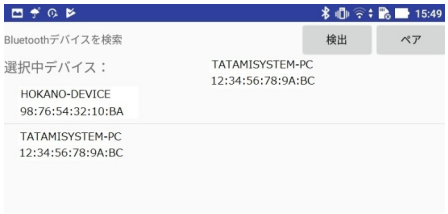



図４－２　Bluetoothデバイス検出

表示されたBluetoothデバイスの中から、接続したい対象のPCの名前を選び、タッチしてください。確認の上、接続先としてそのBluetoothデバイスがアプリに登録されます。

その上で、「ペア」ボタンをタッチすると、PCとAndroid端末の間にペアリングが行われます。
PCとAndoroid端末両方で表示される通知で、ペアリングを行うかどうかの確認が行われるので、それぞれで一定時間内に「ペアを設定する」もしくは「はい」など、ペアリングをする選択肢をクリックしてください。

図４－３　Android側ペアリング確認

この操作により、ペアリングが行われ、WindowsPC側にBluetooth着信設定を作成することができるようになります。

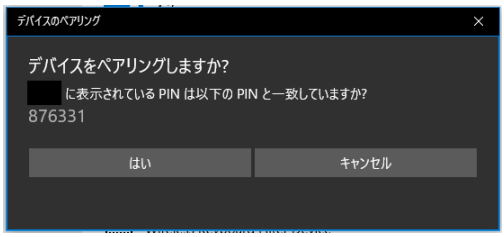



図4－4　Windows側ペアリング確認

## ２．PCの受信ポートの作成

次に、WindowsPCでファイルを受信するため、Bluetoothによるファイル受信用ポートを作成します。「Bluetooth設定を開く」などからWindowsの「Bluetooth設定画面」を開いてください。

この画面を下にスクロールさせると、図4-5で赤丸で示す「その他のBluetoothオプション」が現れます。
これをクリックすることで、「Bluetooth設定」ウィンドウが開きます。

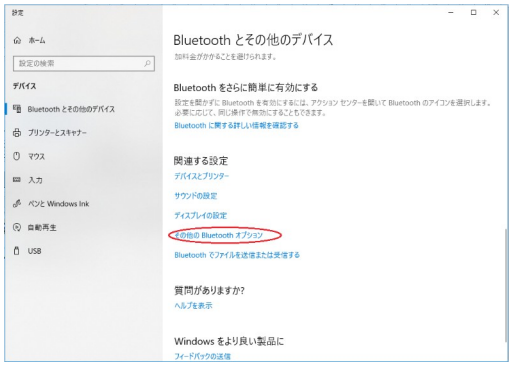



図4-5　Bluetoothと
その他のデバイス画面

注：
WindowsPCにおけるBluetoothの受信設定は、使用するBluetooth無線機やそのソフトウェア（Bluetoothスタック）によって操作が異なります。
この混乱を避けるために、畳寸取帳では、Windows標準のBluetoothスタックを使用することを前提として、以下で操作を解説します。
それ以外のスタックでの接続は、同様の操作で動作する可能性はありますが、保証外とさせていただきます。

# ４．採寸データ送信（３）　Bluetooth通信

　この画面で、赤丸で示す「COMポート」の項目をクリックすると、Bluetoothで使用するCOMポートのリストが表示されます。
　このリストから赤線で示す、「着信」で示される項目が、データコンバータで採寸ファイルの受信に使用するポートとなります。
　初期状態ではこの「着信」のポートが作成されていないので、以下の手順で作成します。

　画面右下の「追加」ボタンをクリックしてください。

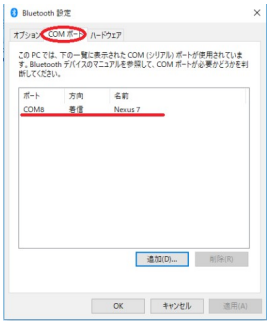



図４－６　Bluetooth設定
(Windows)画面

　この画面で「着信（デバイスが接続を開始する）」をチェックし、「OK」をクリックすることで、Bluetooth着信ポートが作成されます。

　あとは畳システムＶ５のBluetooth設定画面に戻り、「ポート一覧の更新」をクリックすることで、先ほど作成した着信用COMポートを表示し、これを登録することができます。

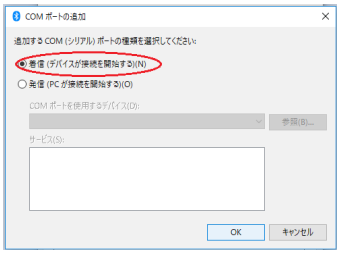



図４－７
COMポートの追加画面

## ３．採寸ファイルの送信と受信

　メイン画面に戻り、画面左上の「受信方式」メニューから「Bluetooth」を選択します。

　画面左下の「受信待機開始」をクリックすることで、待ち受けモードを開始します。

　ボタンの表記が「受信待機中」になったら、畳寸取帳側のスタート画面のメニューから「送信（Bluetooth)」をタッチして、ファイルの送信を行ってください。

　受信に成功したら、画面のリストに採寸ファイルのリストが表示されます。

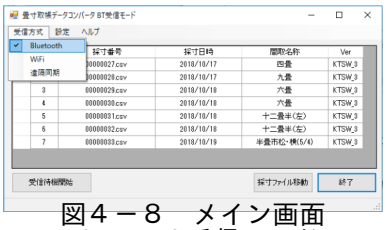



図４－８　メイン画面
Bluetooth受信モード

　使用しているBluetoothスタックによっては、ここでWindowsPC側に受信の許可を求める確認ウィンドウが表示されるので、WindowsPCでも「OK」などをクリックしてください。

図４－９
Bluetooth送信の確認

　この操作によって、Android端末からWindowsPCに、採寸ファイルが送信されます。
　正しく送信が行われたなら、受信ソフトに部屋のリストが表示されます。

　以上で、Bluetooth無線によるファイル送信は終了です。以降はWindowsPC上で管理を行ってください。

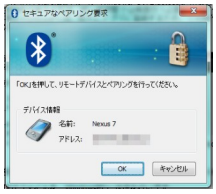



図４－１０　PC側受信確認

　なお、「設定」で「ファイル送信時　自動で採寸ファイルを削除する」のチェックを入れていると、送信が成功して終了した時、Android端末に記録されている採寸ファイルが削除されます。

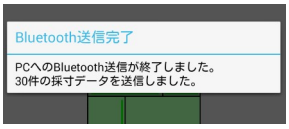



図４－１１　送信成功

# ４．採寸データ送信（４）　WiFi通信

## ４－３．WiFi接続で採寸ファイルを送信する

畳寸取帳は、WiFi通信を介して採寸データをWindowsPCに取り込むことができます。

WiFi接続で採寸ファイルを取得したい場合、畳寸取帳を使用するAndroid端末が接続する無線アクセスポイントに、PCが無線、もしくはイーサネット接続で繋がっている必要があります。

１．初期設定

WiFi接続を行う場合、畳寸取帳はWindowsPCのIPアドレスとポートを知っている必要があり、さらにWindowsPCのファイアウォールに、データコンバータの通信を許可する設定を行う必要があります。

IPアドレス設定を確認するには、畳システムV5受信画面の「設定」画面から、「WiFi接続」のタブを開いてください。

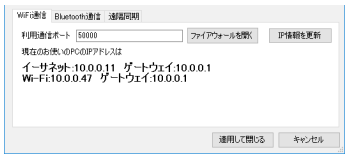



図4-12　WiFI設定画面

「イーサネット」と書いてある項目が、PCの有線LANで繋がる側のIPアドレスです。
「Wi-Fi」と書いてある項目は、PCの無線LANで繋がる側のIPアドレスです。
ここで表示されているIPアドレスを、畳寸取帳のWiFi通信設定に与えることで、畳寸取帳からの採寸ファイルを受信することができます。

複数のIPが表示されている場合、どのIPを使用するかは、基本的にはWiFi側のIPアドレスを優先して指定すると良いでしょう。
畳寸取帳のWiFi設定で、畳寸取帳側のIPアドレスを確認し、どちらの番号が近い（上の桁が同じ）かどうかで判断することもできます。

次に「利用通信ポート」を設定します。
20000～60000の範囲のいずれかを指定し、「ファイアウォールを開く」をクリックしてください。
この操作により、Windowsに畳システムV5の通信許可を与えられます。

## ２．受信

受信画面に戻り、画面左上の「受信方式」メニューから「WiFi」を選択します。

画面左下の「WiFi受信待機開始」をクリックすることで、待ち受けモードを開始します。
ボタンの表記が「WiFi受信待機中」になったら、畳寸取帳側の「設定」でIPアドレスとポートを畳システムV5で確認したものに設定し、「送信（WiFi)」をタッチして、ファイルの送信を行ってください。

受信に成功したら、受信画面のリストに、畳寸取帳から送り込まれた採寸ファイルのリストが表示されます。

図４－１３　畳寸取帳
WiFi設定画面

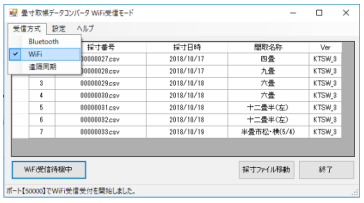



図４－１４　メイン画面
WiFi受信モード

# ４．採寸データ送信（５）　遠隔同期

## ４－４．遠隔同期で採寸ファイルを送信する

遠隔同期は、ネットワークストレージサービスを利用して、現場から直接インターネットを経由して採寸ファイルを畳システムに送り込みます。
現場で採寸した採寸データを、採寸者が工場に帰社する前に製造に取りかかりたいなど、手順の効率化を進めたい場合に利用できます。

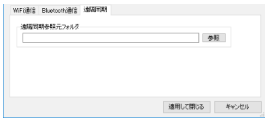


図４－４－１
遠隔同期設定画面

### １．初期設定

遠隔同期で採寸ファイルを取得したい場合、畳寸取帳を使用するAndroid端末がインターネットに接続しており、畳システムPCも同じくインターネットに接続している必要があります。
また、利用者が自分でDropbox等のクラウドストレージに契約し、Android端末とPCが、それぞれ同一のアカウントでストレージを利用できる状態になっていなくてはなりません。

ここでは、それらの契約が終了し、Android端末とPCでそれぞれネットワークストレージサービスを利用可能な状態になっていることを前提とし、Dropboxを例として解説を行います。

ネットワークストレージサービスの、PC上の共用フォルダの場所を確認してください。

エクスプローラのクイックアクセスなどに表示されている、Dropboxのアイコンをダブルクリックすることで、Dropboxの保存パスを表示することができます。
表示されたパスをコピーして、図４－４－２で示すように、「設定」を開いて「遠隔同期」タブをクリックしたのち、「遠隔同期参照元フォルダ」にDropboxの共有フォルダのパスを入力してください。

「適用して閉じる」をクリックしたら、設定を反映してメイン画面に戻ります。

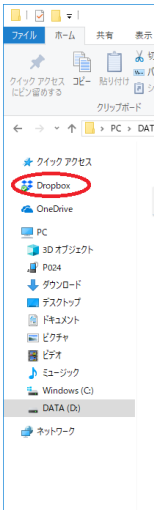


図４－４－２
エクスプローラ上の
DropBox保存位置

### ２．送信と受信

畳システムV5の「受信画面」で「受信方式」を「遠隔同期」に変更すると、画面は図４－４－３のように変更されます。

遠隔同期モードでは、一定時間（10秒）ごとに、指定された遠隔同期フォルダの中を確認して、そこに書き込まれたファイルを、畳システムV5の「保存先」で指定したRecieveフォルダにコピーします。

図４－４－３
遠隔同期受信画面

畳寸取帳の「スタート画面」から、画面上のメニューバーにある （共有）のアイコンをタッチしてください。
共有機能を利用することのできるアプリのリストが表示されるので、そこから使用したい共有機能（今回はDropboxを使用します）をタッチします。

今回の場合はDropboxが呼び出されるので、画面右下の「追加」をタッチしてください。
この操作によって、現在畳寸取帳に記録されている全ての採寸ファイルがDropBoxに書き込まれます。

図４－４－４
共有機能

この状態でAndroid端末をインターネットに接続すると、自動的に採寸データをDropboxのクラウドストレージにアップロードします。
事務所等のPCから採寸データを参照することができるようになり、畳システムV5が遠隔同期モードで「受信画面」を開いていれば、アップロードされた採寸ファイルを閲覧することができます。

図４－４－５
Dropbox追加

注1：
インターネットに接続した場合、自動的にファイルをネットワークにアップロードするため、場合によって通信費用がかかります。ご注意ください。

注2：
遠隔同期モードでは、採寸ファイルをクラウドストレージなどに送り込んでも、畳寸取帳内の採寸ファイルを自動的には消去しません。
アップロードの後、必ず「スタート画面」のメニューから手動で「採寸ファイルを全消去」を行い、ファイルを消去するようにしてください。
これを行わないと、都度古い採寸ファイルをクラウドストレージにアップロードすることになり、通信量が肥大化します。

# ４．採寸データ送信（６）　遠隔同期

なお、「遠隔同期モード」では、他のクラウドストレージサービスを利用したり、Gmailによってメールで採寸ファイルを送信することも可能です。
その場合は、そのサービスのアプリをAndroid端末にインストールした後、共有機能のリストから、そのアプリのアイコンをタッチして、アプリを起動するようにしてください。

それぞれのサービスの利用法については、個別のアプリの利用法をご確認ください。

注：
畳寸取帳は、共有機能を「現在保存されているすべての採寸ファイルを送信する」形で利用します。

## ４－５．採寸ファイルの利用

畳システムV5で受信した採寸ファイルは、そのままでは割り付けや転送書き込みを行うことはできません。畳システムV5の採寸フォルダへの移動を行う必要があります。

採寸ファイルの受信に成功した場合、受信ファイルリストに採寸ファイルが列挙されます。これらのファイルには、以下の操作が可能です。

図４－５－１
受信成功

### １．敷詰図の表示と印刷

部屋リストの表示したい項目をダブルクリックするか、右クリックのメニューから「敷詰表示」を選択することで、敷詰図を表示することができます。

敷詰図は、畳寸取帳で作成した部屋データを畳システムV5仕様で表示したものです。画面の拡大縮小を画面下のボタンで調節することができます。

この画面から敷詰図の印刷を行うこともできます。

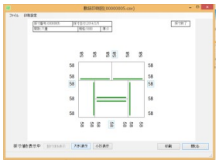


図４－５－２
敷詰図

### ２．採寸ファイル移動

取得した採寸ファイルを、畳システムV5の採寸フォルダに移動します。
この処理を行うことで、部屋の寸法の割り付けや、省力機への転送書込を行うことができるようになります。
採寸フォルダに移動させた以降の操作は、畳システムV5の取扱説明書を参照してください。

### ３．ファイルの削除

畳システムV5「受信画面」の受信ファイルリストにいつまでもファイルが残っていると、新しく追加した部屋の参照に不都合が生じる可能性があります。
これを避けるため、ファイルの削除を行う必要があります。
基本的には、「受信画面」を閉じる際に、受信ファイルリストにファイルが残っていた場合、ファイルの削除するかどうかの確認を行います。ここで「はい」を選択すると、受信した採寸ファイルを自動的に削除を行います。

注：
「遠隔同期モード」では、「受信画面」で採寸ファイルを削除しても、クラウドストレージサービスのフォルダに格納されている採寸ファイルは削除されません。
そのため、何度「受信画面」のファイルを削除しても、都度クラウドストレージフォルダから採寸ファイルが取り込まれ続けるという現象が発生します。
これを避けるには、採寸ファイルの取り込み作業が完了した段階で「同期フォルダ削除」のボタンを押して、クラウドストレージフォルダの中のファイルを全削除するようにしてください。

# ４．採寸データ送信（７）　メール送信

## ４－６．メールによる送受信

　畳寸取帳の採寸ファイルを、メールに添付して送付することができます。これは出先から携帯電話通信を通じて事務所に採寸データを送信する場合などに使用します。

　メール送信を行う場合、設定から「送信先メールアドレス」を指定してください。これを指定しておくことで、メール送信先をいちいち設定する手間を省くことができます。

　畳寸取帳に採寸ファイルがあるとき、メニュー画面で右上の共有ボタン（図4-6-1右上の赤丸）をタッチすると、共有アプリの一覧が表示されます。

　この中で、メールの送受信の準備が終わっていれば、Gmailのアプリが表示されます。

　Gmailアプリをタッチすると、メールの作成画面が表示されます。（図4-6-2）

　特に必要がなければ、そのまま送信してください。

注：
どの現場の採寸データであるのか但し書きをするなどして、受け取る側がわかるようにすることが望ましいでしょう。

図４－６－１
メール送信

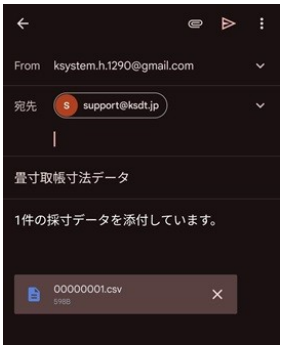



図４－６－２
メール作成

## ４－６－２．メールの受信

　送信したデータは畳システムPCのメールソフトで受信し、添付ファイルをわかるところに保存してください。

　畳システムのメニューから「通信」を開き、受信したファイルをリストにドラッグ＆ドロップすることで取り込みを行うことができます。

　受信後、「採寸取込」で畳システムに取り込んでご利用ください。

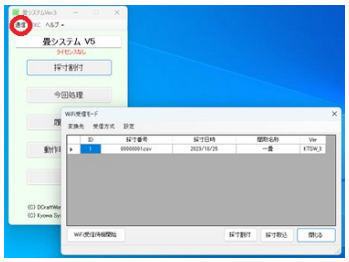


図４－６－３
畳システム通信画面

# ５．採寸機との連携（１）

畳寸取帳は、無線採寸機とBluetooth経由での連携を行うことができます。

## 対応採寸機

畳寸取帳は、「株式会社杉井のレーザーマジックF-1」および「Magpee VH-80SE」との連携に対応しています。

## 連携内容

畳寸取帳は、無線採寸機と以下の連携を行います。

・採寸値の読み取り
Bluetooth無線を利用して、無線採寸機が示す寸法を厘単位で取得し、寸法カウンタに表示します。

・採寸値の自動読み取り(レーザーマジックのみ)
レーザー投射機のレーザーが、無線採寸機の受光部に入射した瞬間に、自動的に寸法を取得して読み取りを行うことができます。

・無線採寸機のエンコーダ定数の変更(レーザーマジックのみ)
接続した無線採寸機のエンコーダ定数を指定の値に変更することができます。

・無線採寸機の自動電源OFF時間の変更(レーザーマジックのみ)
接続した無線採寸機の、無操作状態で自動的に電源をOFFにする時間を変更することができます。

## 検索と登録

無線採寸機との連携は、以下の手順で畳寸取帳 for Anに登録を行うことで行えます。

「採寸画面」画面右上のメニューから「BT無線機検索」、もしくは「設定画面」の「採寸機BTアドレス」右の「検出」をタッチしてください。

表示された「Bluetooth接続検索」画面で、右上の「検出」ボタンをタッチすると、現在検出可能なBluetoothデバイスがリストに表示されます。

表示されたBluetoothデバイスの中から、接続したい対象の無線採寸機の名前を選び、タッチしてください。確認の上、接続先としてその無線採寸機がアプリに登録されます。

接続先の無線採寸機を特定できない可能性があるため、周囲のBluetoothデバイスはなるべく停止させてから検索を行ってください。

畳寸取帳で利用するデバイスは、「ZEAL（レーザーマジック）か「VH-80（Magpee)」となります。

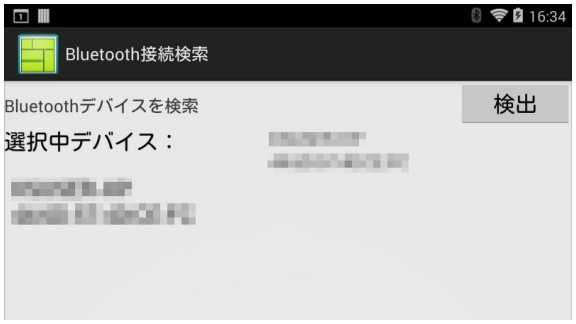



図６－１　Bluetooth接続検索

## 接続のしかた

無線採寸機から寸法を取得するには、無線採寸機と接続する必要があります。

無線採寸機に電源を入れてから、「採寸画面」で寸法カウンタ左の「接続」ボタンをタッチすることで、寸法の取得を行うことができます。

図６－２　無線採寸機の接続

# ５．採寸機との連携（２）

ここでは、レーザー測定器Magpie(VH-80)を使用した採寸について解説します。

## VH-80との接続

レーザー測定器Magpie（以下VH-80)を使用する場合、以下の手順で接続してください。

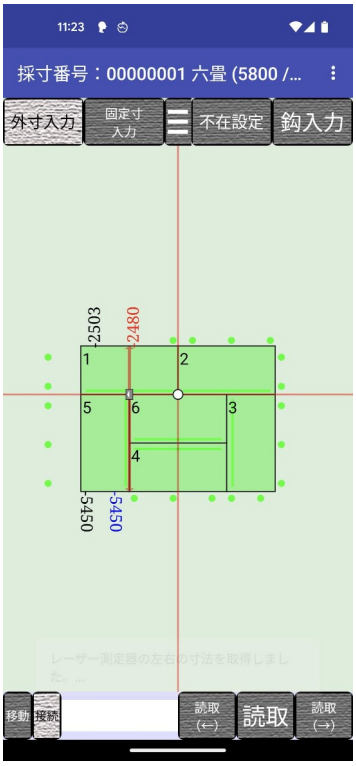
1）Bluetooth接続設定が行われていないなら、検索して登録する
手順は前段を参照してください。

2）VH-80の電源を入れる
真ん中のボタンを長押ししてください。

3）畳寸取帳を起動し、採寸画面を表示する

4）「接続」ボタンを押す
接続に成功すれば、VH-80の画面が「App' Mode!!」に切り替わります。

## VH-80での採寸




1）寸法入力するモードにするため「外寸入力」をタッチし、色が変わっていることを確認してください。

2）図面の上で、レーザー測定器の設置位置を長押しする。
〇が移動し、赤い線の交差点が概ね実際のレーザー位置に一致するようにしてください。

3）測定を行う測定点をタッチして、その点から伸びる赤線とレーザー線が交差する場所に測定器を置く。
測定器の向きが、矢印が向いている方を「Magpie」の文字が読める向きに合わせて、電源ボタン上下の▼マークがレーザーと交差していることを確認してください。
〇で示されるレーザー投光器の位置に対して、原則外向きになることに注意してください。

4）レーザーの焦点確認
レーザーが正しい場所に当たっていることを確認してください。
レーザーポインタが見えなくなっている場合、「接続」ボタンをタッチすることで表示させることができます。
もし思うような場所にレーザーが当たらない場合、高さを調節するか、添付の反射板を設置して読み取りを行ってください。

5）両端の寸法を読み取る
「読取」ボタンをタッチすると、両端にレーザーを発して寸法を読み取ります。
寸法は、規格からの差分で読み込まれます。

6）出合の場合の測定
出合の寸法であったとき、右図のように、自動で同じ値は割り当てられません。
未入力の測定点をタッチして選択状態にした後、レーザーの位置を少し動かして、出合の寸法を改めて測定してください。
なお、この時「読取」ボタンの左右の「読取（←）」「読取（→）」ボタンをタッチすれば、そちら側の寸法だけを取得することができます。
測定器の向きに注意して読み込みを行ってください。

7）次の測定点をタッチし、測定を続ける
3～6の操作を繰り返して、部屋の測定を終了します。

# ７．困ったときは

## ＯＳをアップデートしたら動作しなくなった

AndroidOSを更新した場合、古いままのアプリでは正しく動作しない可能性があります。
まず、更新が配布されたからといって、不用意にAndroidOSを更新しないことをお勧めします。
更新を行う、もしくは行った場合、Google Play Storeにアクセスし、ソフトウェアのアップデートがないかを確かめてください。

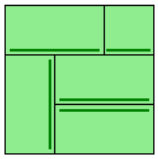
## 連絡先

本ソフトウェアの利用上で疑問点や問題が発生し た場合、弊社までご連絡ください。

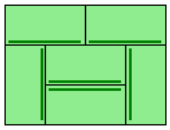
DCraftWork　畳システムサポート
Eメール：support@ksdt.jp
所在地　：広島県広島市西区己斐大迫3-20-5
電話　　：082-273-1290 営業時間：9:00～18:00(土・日・祝を除く)

# 付録１：作成可能な間取

## 評価版で作成できる間取



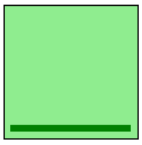
四畳半（右）



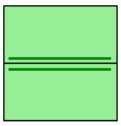
六畳

## 通常版で作成できる間取

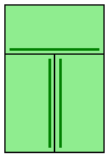
一畳



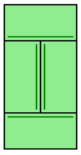
半畳



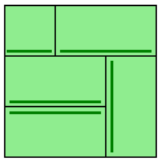
二畳



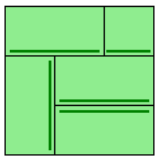
三畳



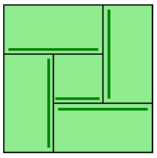
四畳



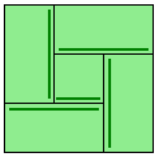
四畳半（左）



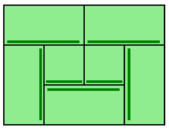
四畳半（右）



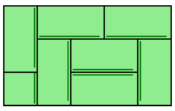
四畳半左中



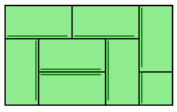
四畳半右中



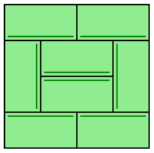
六畳堀炬燵



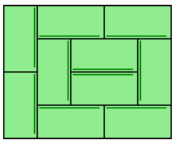
七畳半（左）



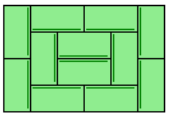
七畳半（右）



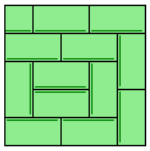
八畳



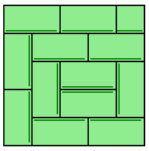
十畳



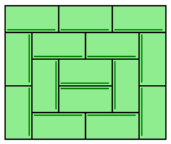
十二畳



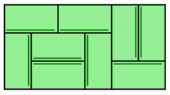
十二畳半（左）



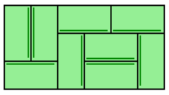
十二畳半（右）



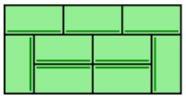
十五畳



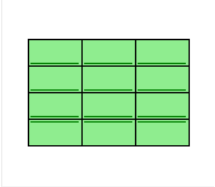
九畳右三



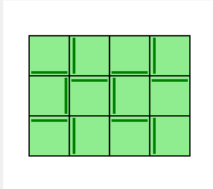
九畳左三



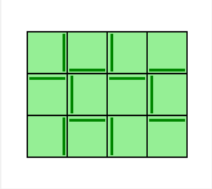
九畳



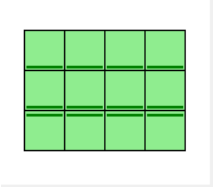
広間



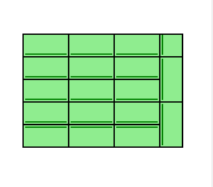
半畳市松・横



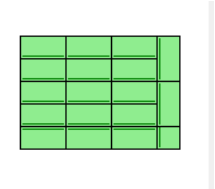
半畳市松・縦



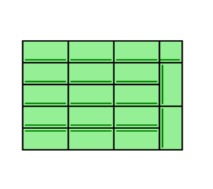
半畳並広間



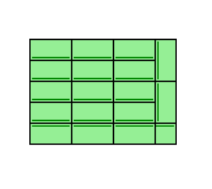
右半畳広間



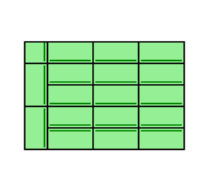
右下半畳広間



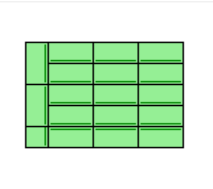
右半畳広間(R)



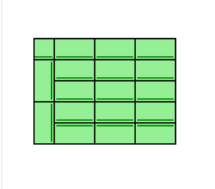
右下半畳広間(R)



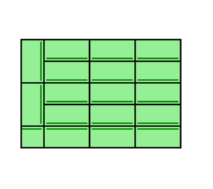
左半畳広間



左下半畳広間



左半畳広間(R)



左下半畳広間(R)